



世界遺産ってなんだ？ & 希少!?ヘゴ・モダマ in 住用町



第2回目の子ども博物学士講座は「世界遺産ってなんだ？ & 希少!?ヘゴ・モダマ in住用町」と題し、奄美市住用町までバス3台で移動しました。当日はあいにくの雨でヘゴとモダマの観察は中止となりましたが、奄美大島世界遺産センターの講座では2グループに分けて、世界遺産に登録された背景や、奄美に暮らす動植物について学びました。

生物多様性と少し難しい内容でしたが、講師の先生方の分かりやすい説明で、最後のまとめの時間には多くの質問や発表があり、龍瀬小1年の大茂 眞珠さんは「アマミノクロウサギがハブから子どもを守るために、巣穴の入口をふさがることが分かった」との発表があり、龍北中3年の眞 俐理さんは「観光客向けのリゾート開発により奄美の環境が大きく変化している。その中で自然に寄り添った考えを持ち、ボランティアや清掃活動などに積極的に参加したい。」との発表がありました。

次回の子ども博物学士講座は8月31日（土）に県立奄美少年自然の家と協同でスターウォッチングを実施します。たくさんの参加をお待ちしています。

講座参加者：125名（児童・生徒79名 保護者42名 未就学時4名）